

TIME SCHEDULE

若手職員のある1日

- 8:00 朝礼
- 8:30 現場確認・巡回
- 11:00 作業間連絡調整会議
- 12:00 昼休憩
- 13:00 現場確認・巡回
- 14:00 職長と打ち合わせ
- 16:00 現場確認・作業仕舞い確認
- 17:00 工事課定例会議
- 18:00 作業指示書作成・書類回覧後、帰宅

晴海マンション工事事務所 三谷所長さんからのメッセージ

建設をマネジメントするという事は、大きな仕事です。現場は事業者や設計者、監理者、職人さんだけでなく、建築行政や消防、警察、病院、さらには近隣の住民などあらゆる人たちと関係して、ものづくりを進めていきます。この現場では延べ25万人以上とお付き合いをすることになります。だからこそ「Q(品質)、C(コスト)、D(工程)、S(安全)、E(環境)」によるトータルマネジメントが重要なんです。仕事は、人生の大半を占めます。就職活動では、人生をどう生きていきたいのかを真剣に考えてほしい。人生の大きなビジョンを持ち、目的意識を持って働いてもらいたい。

日本人にしかできないものづくりがある。日本の建設業の技術は世界一です。建設業ならではの楽しさがあります。

厳しい時代だからこそ、チャンスがあるのだと思います。



晴海二丁目マンション C1街区新築工事事務所所長 三谷 卓史さん



山野 邊義達さん (26歳)
2009年日本大学理工学部建築学科卒。ゼネコン入社。晴海の現場は、2カ所目のマンション現場。

野口 泰寛さん (28歳)
2009年日本大学大学院生産工学研究科建築工学専攻修了。ゼネコン入社。3年間で三つのオフィスビルを経験。

YOUNG ENGINEERS

同期入社の2人。この現場で初めて一緒に仕事を。現場では一番の若手技術者になるが、年上の職長・職人さんにも適切に作業指示を出し、より良いものづくりを心掛けている。仕事だけでなく、スポーツ好きの共通点も。



戸川 真緒さん
東京都市大学工学部建築学科2年

久下 博久さん
東京都市大学工学部建築学科2年

STUDENTS

先輩の卒業設計のお手伝いも一段落し、この春3年生になると進路についても本気モード。初めての現場訪問で、建築学科出身者には設計や施工、研究、開発などさまざまな道があることを知った。



バルコニーの施工精度がマイヤー氏のデザインを左右する

「工程管理とともに安全には細心の注意を払う」加藤さん

「着工から延べ115万時間の無事故無災害が続いており、200万時間を目標にしています。こうした建築現場では、しっかりと工程管理で工期を守ることに加え、安全に細心の注意を払うことが非常に重要です」と施工を担当するゼネコンの加藤君(副所長。建物構造の特徴である免震コアウォールやマイヤー氏による外装デザイン、タワー式機械駐車設備をどうつなぐのかなどについても詳しく解説してくれました。今回の現場訪問は、久下さんと戸川さんにとって初めてづくし。初めて目にする建設現場の内側、初めて乗る工事用エレベーター、初めて話を聞くゼネコンの技術者。緊張しながら戸川さんが「マイヤーさんのデザインをどう実現したのですか。苦労した点はどこでしょうか?」と尋ねると、外装工事の施工管理を担当している野

口泰寛さんが「外部バルコニーがランダムに配置されているデザインであり、片持スラブと梁を一体化した外周梁で施工しているのが特徴です」と答えてくれました。



サイトPCヤードの作業も終盤を迎えている

「いろんな領域で活躍していける可能性がある」山野邊さん

学生2人はこの春3年生。研究室を決めて進路を考え始める時期です。山野邊さんは自身の経験を踏まえて、「3年生までは授業を精いっぱいと思いますが、3年生ぐらいからはやりたいことが見えてくるのではないのでしょうか。学生の皆さんにはいろんな分野、領域で活躍していける可能性があります。その中でも施工は楽しく、ぜひ進んでほしいと思います。」とアドバイスしてくれました。



管理業務にはチェックポイントがたくさん



加藤副所長(左端)の説明に聞き入る学生2人(手前)

久下さんは「施工側から設計側に提案することはあるのですか?」と質問。すると躯体工事の施工管理を担当する山野邊義達さんが「免震コアウォールの合理化施工を検討した際、取り合う柱をPC(プレキャストコンクリート)化する計画がありました。形状的にトラックに積みず転送できないことが分かりました。そこで現場にPC工場を設けようと施工側から提案して、実際にサイトPCヤードをつくりました。こうした施工は都

「いろんな領域で活躍していける可能性がある」山野邊さん

学生2人はこの春3年生。研究室を決めて進路を考え始める時期です。山野邊さんは自身の経験を踏まえて、「3年生までは授業を精いっぱいと思いますが、3年生ぐらいからはやりたいことが見えてくるのではないのでしょうか。学生の皆さんにはいろんな分野、領域で活躍していける可能性があります。その中でも施工は楽しく、ぜひ進んでほしいと思います。」とアドバイスしてくれました。

晴海のウォーターフロントに 高さ175m・超高層建築をつくり込む

東京・晴海のウォーターフロント地区で、高さ175mにも達する大規模タワーマンションの建設が進んでいます。安全性や耐震性などのハード面、コミュニケーション・活性化プログラムといったソフト面の充実も着るん、世界的建築家のリチャード・マイヤー氏(米国)をコンセプトデザイナーに起用し、デザイン面でも注目を集めているプロジェクトです。2013年11月の完成に向けて急ピッチで工事が進む建設現場を、東京都市大学で建築を学んでいる久下博久さんと戸川真緒さんが訪れました。2人にとっては初めての現場訪問となりました。

まずは工事事務所でプロジェクトの概要をレクチャー。地上49階・地下2階建、超高層免震構造の大規模マンション(総戸数883戸)を、周辺環境への配慮などさまざまな制約条件がある中、実働37・5カ月で完成させるという工程管理の難しい現場です。実質の作業日数から算出した躯体工事のサイクルは、1フロア当たり5日。現場を訪れた日は、地上46階の躯体工事を行っているところで、その下の各フロアで進められている設備工事や内装工事なども含めると約530人が作業をしていました。

学生 現場訪問 建築篇

新しいマンション建設の 基軸を提案

晴海二丁目マンションC1街区新築工事を訪ねて



建築主:三菱地所レジデンス 鹿島建設

2013年2月取材

晴海二丁目マンション C1街区新築工事概要

三菱地所レジデンスと鹿島建設が、東京都中央区晴海二丁目共同開発している超高層マンション。約3haの敷地内に2棟・総戸数約1800戸規模で展開する「ザ・パークハウス・ブランドの第1期(1棟)・ザ・パークハウス晴海タワーズ クロノレジデンス」です。都心立地を最大限に活かすとともに、ハード・ソフト・デザインの全てにおいてフラッグシッププロジェクトにふさわしい要素を盛り込み、これからのマンションの新しい基軸を提案しています。

ハード面では、三菱地所設計が設計した「免震コアウォール」を採用し、地震の震動を大きく軽減します。災害時の安全性・耐震性を高めるだけでなく、ワイドスパンで梁の少ないゆとり居住空間や、より快適な高層居住空間を実現。良好な住宅ストックを将来世代に継承するために創設された「長期優良住宅の普及の促進に関する法律第6条第1項の認定基準」の適合を、三菱地所レジデンスのマンションとして初めて取得しました。

ソフト面では、充実した共用施設を用意し、住民間のコミュニケーションと、新しい都市のライフスタイルを創造するためのコミュニティ活性化プログラムなどを提案しています。デザインは、世界的建築家のリチャード・マイヤー氏をコンセプトデザイナーに起用(日本の集合住宅分野で初めて)。ファサード、エントランスホールに加えランドスケープにも同氏のコンセプトデザインを取り入れ、中央区晴海地区、東京ウォーターフロント地区の都市景観に貢献できる新たなランドマークとなるようデザインしています。



建物内部に築かれていくコアウォール



国内最大級となる、1.6m角の巨大な角型免震装置